フィールド(現場)からの風 ⑫⑨

宮田守男

地域の皆さんと交流する機会を増やすことが大切だと考えてみませんか

10月下旬、大北地域の自治体に勤務して退職したメンバーで東京日帰り旅に出掛ける。懐かしい顔ぶれや初めて出会う人。会話も当時の話題が中心だ。昼食を済ませ、浅草周辺を散策する。外国人観光客で大にぎわいだ。仲見世通りのお土産屋の女子店員に最近の様子を訪ねる。「今日は平日で少ない、休日は大繁盛」とほほ笑む、

「しかし、国によって客層はさまざま。特に韓国の女性は…」と顔が曇る。情報として伝えられない内容に驚く。浅草寺の賽銭箱にお賽銭を投げ込み、柏手を打つ外国人の仕草に、思わず微笑んでしまう。

浅草文化観光センターに立ち寄る。案内カウンターは、大勢の外国人。しばらく眺めていると、日本ならではの情報を探していることが分かる。パンフレットラックには、多くのパンフレット。この一帯が台東区だと痛感する。

「ようこそたいとうへ・台東ぶらり散歩」の内容の異なるパンフレット。上野公園を訪ねる・浅草寺と隅田川畔を訪ねる・谷中を訪ねる・南と北めぐりで巡る手作り工房・七福神めぐり・正岡子規ゆかりの地(句碑)を訪ねる・樋口一葉ゆかりの地(たけくらべ)を訪ねる・日本で、はじめての地を訪れる・創業百年を超える老舗を訪ねる・台東区ゆかりの有名人がおすすめする・水辺を巡る今昔物語・ご利益パワースポットを巡る…など興味ある内容のパンフレットが数多く並ぶ。改めて観光地東京の意気込みを感じてしまう。資金力豊富な自治体が繰り広げる観光戦略。東京オリンピック開催の機運と相乗した威力は、今後益々活気づくだろう。

仲見世通りの裏路地の蕎麦屋の前に行列。気になり行くと、入口横でメロンパンの販売。カウンター横の壁には、有名人の来店写真が、所狭しと張ってある。整理係の人に聞くと、「行列ができるようなスピードでの接客がポイント」とほほ笑む。確かに並んで買えた充実感は、他の人にも商品を伝えたい気持ちにさせる。

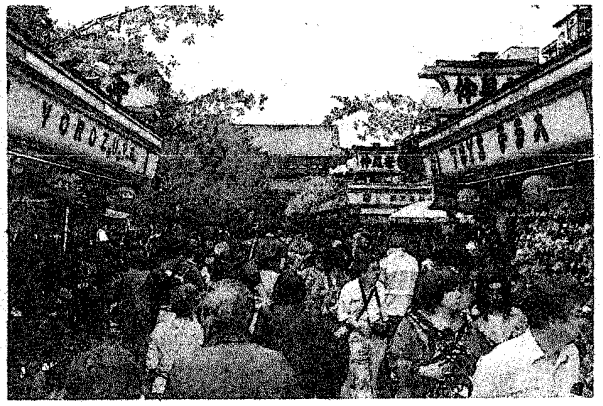
バスで移動して、東京スカイツリーに、事前の団体予約、個人客よりスムーズな移動を予想したが、平日のためか団体客は限られ、団体客専用エレベーターは一系列のみだ。むしろ個人客の列が早く進む事が気になってしまう。ハロウィーンの時期、色々な企画が展開され楽しむ。ハロウィーンは、もともと秋の収穫を祝い、悪霊などを追い出す宗教的な意味合いを持つ行事だったが、今では宗教的な意味合いは、ほとんど無くなった祭になっている。しかし報道によれば日本では、経済効果は1100億、バレンタインの1080億を超えるまでに盛り上がっている。仮装願望や子ども中心のイベントが好感を呼んでいるのかと想像してしまう。

東京行き帰りの車中、熊出没の話題で盛り上がる。大北地域で実際補殺した頭数の話題が、動物との共存の難しさを感じてしまう。「おりで捕獲して山に戻しても、里に戻ってしまう」の声に多くの人がうなずく。

林野庁中部森林管理局が10月プレスリリースしたブナの状況調査で、白馬村と小谷村を含む県内29か所すべてで実らないことが発表された。他県では富山県の一部でわずかな木でしか結実せず、岐阜県や愛知県でも全調査地点で結実なしの結果。

すでに東北地域のブナについては独立行政法人森林総合研究所によって山の実りを予想した、熊出没予測手法が開発され、対策に生かされている。翌年の結実度を当年・前年の結実度と夏の気温から、高い精度で予測できるとの事だ。ブナの果実は「そばぐり」とも言われ、実の中の胚乳は渋みが無く、脂肪分も豊富で美味であり、生のままで食べることができ、動物たちの貴重な食糧源。今年、里に出没した痩せこけた熊の姿が山の状況を物語っている。出没した熊対策も必要だが、野生動物と共存できる環境をどう構築して行けるのかの研究の必要性も痛烈に感じてしまう。普段交流の無いメンバーとの小旅行だが、共通した話題が地域にとって重要な課題だと認識。これからも積極的に色々なメンバーと交流をして行きたいと思った旅でもあった。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



浅草仲見世通り、これでも少ないとの情報。東京で対応できる外国人観光客の数は、と考えてしまう。